

第23回 石狩川下流当別地区自然再生ワークショップの骨子

日時：令和6年1月12日（金）14:00～16:00

場所：札幌開発建設部（本部4F 1号会議室）



写真：ワークショップの様子

◆ワークショップの内容

- ・ 第3回中間評価
- ・ 令和5年度の活動報告
- ・ 札幌開発建設部からの情報提供

◆主な意見

<第3回中間報告>

- ・ 目標種の調査結果について、個体数の減少が懸念される。確認された種類数の変化だけではなく、個体数の変化をどう見ていくべきか。
- ・ 目標種は、10年も20年も同じものとせず、自然再生の経過年数に合わせて、短期的な目標種、長期的な目標種を設定するとよいのではないか。
- ・ 計画策定時から現在までの経験あるいは調査結果を踏まえ、環境の変化に応じた現実的なものにしていくという意味で、目標種については再検討したい。
- ・ 自然に対して人が手を加えることで、自然がどう変わっていくかというのは環境教育にとっていい教材。それぞれ専門分野毎に整理すると、この場所で実験をしている意味が出てくるのではないか。

<令和5年度の活動報告>

樹木調査（植樹活動）

- ・ ヨシとの厳しい競争に打ち勝てる初期成長の早い樹種だけではなく、防草シートを用いた植樹手法を用いることで成長のゆっくりしたものも生えていけるようになった。

魚類調査

- ・ 気象条件、石狩川本川からの流入などを加味した形で湖沼、ワンド、砂州などの環境

が維持されていくように取組を考える必要がある。

鳥類調査

- ・ 草地面積が拡大したことにより、草が非常に増えたことで湿地や、水面にいるシギ科の鳥が見られなくなったことが大きな変化。
- ・ 種類数の変化を把握するには調査人数・回数を増やさなければならない。そのためには、鳥類を調査・観察する人がもっと行きやすい場所、行きやすい状況をつくるべき。

トンボ調査

- ・ トンボは初めから種数と個体数の関係を追ってきた。開放水面や浮葉植物が減少傾向にあるため、種数は細々と見られても、個体数は激減してきている。
- ・ 目標種にナツアカネを入れたほうがよい。

利活用について

- ・ 利活用で行ってきたことが、地域の中にどう反映されたのか、子どもたちの学びにどうつながっているのかという視点での報告をするべき。

◆ワークショップ配布資料

- ・ 石狩川下流当別地区自然再生の取り組み
- ・ 令和5年度調査・活動報告
- ・ 石狩川流域における生態系ネットワーク形成の取組について
- ・ 当別自然再生中間評価（案）

まとめ

- ・ 各委員のご意見を踏まえ、気象条件や自然再生整備後の経過に伴う現地の状況変化に応じた目標種の設定や評価の見直しの必要性について、引き続き検討する。

以 上